※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3010D

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	４年次
使用教科書	改訂新数学Ａ（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用ノートを必ず用意し、ノートをしっかり取りましょう。
・授業は教科書を中心に進めます。例題を理解できれば、問題を解きます。
・課題プリントは途中式を必ず書き、解答が付いている場合は必ず答え合わせをしましょう。

２　学習の到達目標

・場合の数と確率、図形の性質についての基礎的な知識や技能を習得します。
・事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。
・数学を問題の解決に活用する態度を身につけることを目標とします。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、場合の数と確率、図形の性質における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考え、表現できる。	場合の数と確率、図形の性質において、立式および数式処理をはじめ、問題解決に必要なものを的確捉えることができる。	場合の数と確率、図形の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	課題等提出物 ノート 観察等	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	場合の数と確率	１節 場合の数 １．集合 ２．集合の要素の個数 ３．和の法則と積の法則 ４．順列 ５．順列の利用 ６．重複順列 ７．円順列 ８．組合せ ９．組合せの利用	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:集合や場合の数について関心をもち、進んで学ぼうとする。また、順列や組合せの考え方が使われる場面を見出し、意欲的に活用しようとする。 b:集合の要素の個数の考え方を用いて、具体的な事象の考察ができる。また、起こり得る場合について、正確に効率よく数え上げる方法を見出す。 c:身の回りの具体的な事象を通して、樹形図や表を用いて場合の数を求めることができる。また、順列や組合せについて、数学的に考察して計算したり、推論することができる。 d: 集合と要素、順列、組合せなどについての基本的な概念、法則・定理、用語・記号などを理解して、順列や組合せの総数を求められる。	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等

※令和３年度以前入学生用

２学期	場合の数と確率	２節 確率 １．確率の意味 ２．確率の計算 ３．独立な試行の確率 ４．反復試行の確率 ５．条件つき確率	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	a:確率の考え方のよさを認識してそれらをいろいろな事象の考察に活用しようとする。また、反復試行の確率、条件つき確率の考え方に関心をもつ。 b:事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。 c:事象を表現し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。 d:確率についての基本的な概念、法則・定理、用語・記号などを理解し、反復試行の確率、条件つき確率を求められる。	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等
	図形の性質	１節　三角形の性質 １．三角形と角 ２．三角形と比 ３．三角形の重心・外心・内心 ４．角の二等分線と線分の比	 	 ○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a:三角形の性質について、その美しさを味わったり、図形を多面的にとらえようとする。 b:図形の性質を論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。 c:図形の性質を的確に表現できる。 d:三角形の性質についての基本的な概念、法則・定理、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	
３学期	図形の性質	２節　円の性質 １．円周角の定理 ２．円に内接する四角形 ３．円と直線 ４．接線と弦のつくる角 ５．方べきの定理 ６．２つの円	 ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ 	a:円の性質について、その美しさを味わったり、図形を多面的にとらえようとする。 b:図形の性質を論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。 c:図形の性質を的確に表現できる。 d:円の性質についての基本的な概念、法則・定理、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	定期考査 課題等提出物 ノート 観察等

※令和３年度以前入学生用

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。